



公共施設の 今後の利活用は

町民の関わり意識が大切



専属指導員が常駐している有料の健康クラブ（最上町福祉センター内）

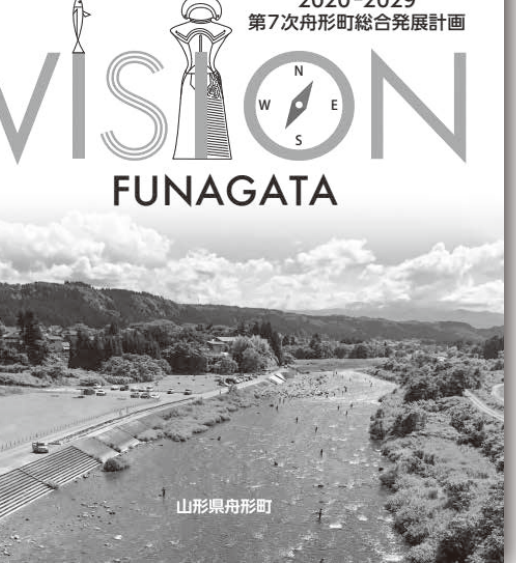
す。過去には農村環境センターや農林漁業体験実習館に運動器具を設置してありましたが、利用人数の減少と器具の老朽化から設置していないのが現状です。現時点では、公共施設への新たな運動器具の設置は考えておりません。健康づくりの推進においては自分の体質や体力を把握し、日常生活における運動習慣や自主的な活動に繋がること、健康で長生きすること、運動の大切さについて町民の意識を高められるよ

町長 令和2年から2期目として町長の重責を担わされていただいております。公約には3つの基本方針を継続して掲げており、第7次舟形町総合

質問 大規模改修を終えた生涯学習センターをはじめ、町の重要な施設は町内町外を問わず利用の促進が必要と考えます。生涯を通じた健康づくりの推進として、個人でも利用が出来る健康運動器具を備えられないか伺います。

町長 舟形町から出土した国宝「縄文の女神」は、今年度、出土30周年、国宝指定10周年を迎え、これまで様々な取組を行ってまいりました。令和3年度に立ち上げた「おかえり女神プロジェクト」では、新潟県十日町市の博物館や、プロ

民の学習活動の支援や文化の振興、健康ならびに社会福祉の増進を図るために設置されているものです。健康づくりとしては、町の重点プロジェクトである「100歳元気プロジェクト」において取り組んでいます。施設での運動器具は現在B&Gに数台設置しているだけで



町民が誇れる町の未来づくりを望む

う今後も努力してまいります。
町長が掲げた
公約の執行率は
評価は町民による判断
質問 舟形町町長として、2期目の終盤になるが、掲げた公約の実行性と自己評価は。
町長 令和2年から2期目として町長の重責を担わされていただいております。公約には3つの基本方針を継続して掲げており、第7次舟形町総合



お母さんの帰りを待つ女神たち

町長 舟形町から出土した国宝「縄文の女神」は、今年度、出土30周年、国宝指定10周年を迎え、これまで様々な取組を行ってまいりました。令和3年度に立ち上げた「おかえり女神プロジェクト」では、新潟県十日町市の博物館や、プロ

地に関する様々な多様な方が訪れたくなる多様な性に富んだ施設を目指すとしています。また、立地については東北中央自動車道舟形インターチェンジからのアクセスが比較的容易で、集客力の向上が期待できる「あゆつこ村地内」が適当であるとの報告を受けています。

本来文化財は、出土地に存在してこそ文化的価値があり、大きな意義があるものと思います。国宝「縄文の女神」が出土地である舟形町に里帰り

出来るよう、現在の所有者である山形県に対して、基本構想なども示しながら、要望活動を行ってまいりたいと考えています。

質問 県立博物館は、令和5年4月で開館52年となり施設の老朽化に加え、山形市による霞城公園の保存整備に伴う「山形城跡保存管理計画」の合意により現在地からの移転を迫られています。これを受けて移転整備に向けた有識者懇談会が開催され、様々な視点から協議されています。この機会

をチャンスと捉え積極的な誘致運動を展開すべきと考えます。新県立博物館は基本構想から開館まで10年程度かかる想定されています。基本構想の段階での積極的な誘致運動が必要であり町長を先頭に出土地に展示ができるよう推進するべきであると考えます。実現性等について、町長の考えを伺います。

ジエクシオンマッピングを導入して展示を工夫している施設などの視察を行い、今年度は、それをもとに「縄文の女神ミュージアム（仮称）基本構想」をまとめています。基本構想では、新施設整備の方向性として、「集まり、つながる博物館」をテーマに、町民等への多様なサービスを提供できる複合施設を前提に、幅広い世代や様々な地域



移転を迫られている県立博物館



縄文の女神の里帰りの実現性は

出土地への返還に向け要望活動を行う